

城南家保ニュース Vol.26-9

熊本県城南家畜保健衛生所

〒868-0042 人吉市蟹作町一本杉 1237-1

TEL 0966-22-3814 FAX 22-3617

E-mail jounankaho@pref.kumamoto.lg.jp

ホームページ <http://www.pref.kumamoto.jp/site/1018/>



県内全域を熊本県緊急死亡野鳥等調査区域に指定しました

11月23日に鹿児島県出水市で回収されたマナヅル1羽の遺伝子検査を平成26年11月27日に実施したところ、A型インフルエンザウイルスが陽性と判明したと公表されました。また、12月1日には、兵庫県南あわじ市で回収された死亡したアイガモ（野生化個体）2検体を簡易検査した結果、1検体において、A型インフルエンザウイルスが陽性と判明しました。

本県では、全国で関連事案が連続して発生していることから、県内発生に準じた取扱いとし、「熊本県野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る対応技術マニュアル」に基づき、県内全域を「**熊本県緊急死亡野鳥等調査区域**」に指定（野鳥監視重点区域を除く）することとし、下記の表掲載のリスク種1及びリスク種2については、1羽死亡から簡易検査の対象、リスク種3及びその他の種については、同一場所で3羽以上死亡から簡易検査の対象となりました。なお、外傷等から死因が交通事故等であることが明白な場合や、死亡個体が腐敗しているような場合は、検査対象とはなりません。

■リスク種

リスク種1(18種)	リスク種2(17種)	リスク種3	その他の種
○カモ目カモ科 ヒシクイ、マガン、シジュウカラガン、 コバクチョウ、コハクチョウ、オオハクチョウ、 オシドリ、キンクロハジロ ○タカ目タカ科 オジロワシ、オオワシ、チュウビ、ハイタカ、オ オタカ、サンバ、ノスリ、クマタカ、 ○ハヤブサ目ハヤブサ科 チョウゲンボウ、ハヤブサ ○重度の神経症状**が観察された水鳥類	○カモ目カモ科 マガモ、オナガガモ、トモエガモ、 ホシハジロ、スズガモ ○カイツブリ目カイツブリ科 カイツブリ、カンムリカイツブリ、 ハジロカイツブリ ○ツル目ツル科 マナヅル、タンチョウ、ナベヅル ○ツル目クイナ科 バン、オオバン ○チドリ目カモメ科 ユリカモメ ○フクロウ目フクロウ科 コノハズク、ワシミズク、フクロウ	○カモ目カモ科 ヒドリガモ、カルガモ、コガモ等(リスク種1、 2以外全種) ○カツオドリ目ウ科 カワウ ○ペリカン目サギ科 ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、コサギ等全 種 ○チドリ目カモメ科 ウミネコ、セグロカモメ等(リスク種1、2以外 全種) ○タカ目 トビ等(リスク種1、2以外全種) ○フクロウ目 コミズク等(リスク種1、2以外全種) ○ハヤブサ目 コチョウゲンボウ等(リスク種1、2以外全 種)	○左記以外の鳥種 すべて (例) ハシブトガラス、 ハシボンガラス、 ミヤマガラス、 ヒヨドリ 等

** 重度の神経症状とは、首を傾けてふらついたり、首をのけぞらせて立っていられなくなるような状態で、正常に飛翔したり、採食したりすることはできないもの。

PED 防疫マニュアル説明会が開催されました

去る11月26日、当家保において、平成26年10月に農林水産省から公表された豚流行性下痢（PED）防疫マニュアルについての説明会が開催されました。本病の農場への侵入防止、農場内でのまん延防止及び農場間の伝播防止のために有効と考えられる防疫対策を、成功事例等を交えながら説明しました。

管内養豚農家、各市町村の畜産担当者、多数御参加していただき、マニュアルの内容を御理解していただくとともに、活発な意見交換が行われました。



近隣諸国における悪性伝染病発生情報

病名	発生地	発生日	畜種	型
口蹄疫	中国	11月18日	牛	○
アフリカ豚コレラ	ロシア	10月27日、10月29日、 11月4日～5日	野生イノシシ	
高病原性 鳥インフルエンザ	インド	11月20日	あひる	H5N1亜型

12月2日現在

編集後記

（衛生課 S. S）

全国で鳥インフルエンザ関連事案が連続して発生しており、日本全国のどこの家きん飼養農場において本病が発生してもおかしくない状況です。農場消毒、防鳥ネットの補修点検、鶏舎出入にあたっての長靴交換等、ウイルスの侵入防止対策に万全を期するとともに、本病を疑う症状が確認された場合には、直ちに当所へ御連絡くださるようお願いいたします。